車座しまなみトーク!

大三島を日本でいちばん住みたい島にするプロジェクト2015

車座しまなみトーク！秋の会 報告書

平成27年度文化庁地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業

この秋、建築家の伊東豊雄がハーバード大学デザイン大学院の授業を受け持つことになりました。選抜された学生12名が日本を訪れ、日本の文化や風土を体験しながら、大三島を舞台にこれからの建築のありかたやライフスタイルについて考え、提案しようという授業です。大学院生たちが大三島を訪れた2015年9月3日、大三島ふるさと憩の家にて「車座しまなみトーク！秋の会」を開催しました。今回は、「大三島の魅力を語ろう・国際編」です。大三島の島民とハーバード大学デザイン大学院の国際色豊かな学生12名が、島の自然や農業、文化や生活について島の人々との意見交換を行いました。島の人々にとっては、初めて島を訪れた国際色豊かな若者の視点が新しい発見につながり、学生にとっては日本の自然や生活を知る貴重な機会になったはず。その模様をデザイン編集者の関康子さんにレポート頂きました。

今回も車座になって行われたしまなみトーク!

国籍を超えて大三島の魅力を語りあった3時間

島を探索するハーバード大学院生達

恵比寿スタジオにて。提案の準備を進める学生達

Part4

車座しまなみトーク！
「大三島の魅力を語ろう・国際編」
2015年9月3日（金）午後

当初2時間の予定が3時間に及んだ「車座しまなみトーク！秋の会」。建築キュレーターの太田佳代子さんがMCを務め、英語と日本語が飛び交い、終始和やかな空気のうちに進行しました。ハーバード大学院生の意見に対し、島民の方々からは「ハッとすることが多かった」「短期間に島をよく見ている」などの感想があがり、一方、学生たちは島民の皆さんの生の声からさらに島の農業や文化の理解を深めることできたようです。締めには、委員長である伊東豊雄さんから「もっともっと島全体を巻き込みながら、こうした交流活動を継続させたい」とのコメントもありました。

初めて体験する文化や風土に興味津々

島への思いを語る伊東さん

会の後のBBQにて
さらに話がはずんだ様子

島民 → ハーバード大学院生

わかりやすく、時々冗談を交えて会場を盛り上げる超智さん

にわとりも野菜づくりに
欠かせない従業員

健康に育った野菜たちは
みずみずしく美しい

超智資行さん（べじべじ自然農園）
「人と自然と農業と」

1998年に大阪から移住し、土地探しから始めました。現在は自然農法で野菜60品種、柑橘5品種を世話しています。農産物加工品も造っています。土が良くなると、いい草が茂り、ミミズなどの小動物が住み着き、野鳥までもが畑で卵を産むようになりました。自然の中で育った作物は、健康で害虫もつきにくく、とてもきれいで美味しいです。

経営の中で、循環型農業にも取り組んでいます。鶏を飼って残り野菜を餌にし、鶏糞と柑橘の剪定枝チップで肥料にして畑に返しています。島の豊かな自然の中で、真の豊かさを求める移住仲間がここ数年で増えました。「あ～幸せ」って思える、島暮らしを農業の分野で取り組んでいます。

大山祇神社参道で幼少期を過ごした小笠原さん

大山祇神社春の例大祭（大三島町教育委員会発行 ふるさと憧憬より）

小笠原享さん（今治市教育委員会文化振興課）
「大山祇神社参道の歴史」

実家が大山祇神社の参道で店を開いていたので、子どもの頃は参道が遊び場でした。一番の思い出は、春祭り。たくさんの参詣者で賑わい、いろいろな出店が集まってきました。今では珍しいぬいぐるみの出店が毎年実家の隣に来ていて、少し汚れた人形をもらった記憶も懐かしいです。

昔、大山祇神社への参詣は船で港について、そこから参道を歩いて行くのが普通でした。当時の春祭りには1日4万人もの参拝者が参道に溢れて、海に落ちてしまう人がいたほどだと聞いています。現在は、御串山沿いの参道横が埋め立てられて風景は一変しています。また、しまなみ海道ができたことで参道の人通りは激減しました。けれども何とかかつての賑わいを取り戻したいと願っています。

花澤伸浩さん（柑橘農家）
「柑橘農家の一年」

農業がしたくて、東京からIターンで大三島に来ました。今は16カ所に分かれていますが、2ヘクタールほどの土地でカラマンダリンを中心に柑橘類を自然農法で栽培しています。当初は苦労しましたが、8年目くらいから、ようやく満足できる作物が収穫できるようになりました。今では土地も肥えてきて、てんとう虫などの良い虫が害虫を食べてくれます。日々、自然の恵みのありがたさを実感しています。

作物はジュースにしたり、妻がコンフィチュールやクッキーなどに加工したりして、産直イベントなどで直接販売しています。ビニールハウスでは子どもたちと一緒に野菜の収穫を楽しんでいます。僕も越智さん同様、子どもたちに田んぼの授業も行っています。

花澤家のみかんもちに驚きの声が上がる会場

収穫を手伝う息子さん

やさしい味のお菓子になった
花澤家の柑橘達

藤原善和さん、市川貞男さん、
藤原正富さん、大内正清さん（宗方地区住人）
「神事 櫂伝馬」

大三島には13の地区がありますが、なかでも宗方は明るく、開放的な性格の人が多く、Iターンの人たちを受け入れる心の広さもあると感じています。そんな宗方住民の誇りは、「神事 櫂伝馬」です。200年以上の歴史があると言われていますが、過疎高齢化でしばらく途絶えていたものを、昨年15年ぶりに復活することができました。これは宗方地区が3つに分かれて、10メートル近い伝馬船に、舵手、漕手、太鼓打ち、子供の剣櫂、梵天など16名が乗船して、海を往復して船をぶつけ合い、操船技術を競う勇壮な神事です。島を離れた宗方出身者も集結してくれて、どうにか復活することができました。これを機に有志で『ふるさと通信』を発行し、島内外の人々と交流を深めています。

昨年の櫂伝馬の様子を動画を交えて紹介

年初に行う弓祈祷

15年ぶりに復活した櫂伝馬

ハーバード大学院生 → 島民 “大三島で最初に心に響いたこと”

エリン・クエバスさん
（アメリカ、カリフォルニア出身）

私は島を巡って建物の壁や屋根を構成する木材や石材などの素材や、その組み合わせ方に興味をもちました。こうした文脈のなかに独特の文化があるように思います。

アンナ・ファルベロさん
（スペイン出身）

私はしまなみ海道の風景です。島々と海、それをつなぐ美しい橋が織りなす風景に、私は海と大地の恵みを感じ、この恵みで生きている幸せな人々に思いをはせました。

エリン・オータさん
（アメリカ、カリフォルニア出身）

美しい海に囲まれた大三島で印象に残ったことは、海面の色と光です。そこから水面の深さや広さ、空気の密度や湿気を体感できて、思わず瞑想をしたくなりました。

リアン・スエンさん
（アメリカ、カリフォルニア出身）

私は大山祇神社の石段と大木です。それらには「近づきやすさ＝近づきにくさ」、「新しさ＝古さ」の境界があるように感じ、その絶妙なバランスがとても魅力的でした。

ヨン・ウク・キムさん
（韓国出身）

私は参道と「みんなの家」です。参道では植栽などを通じて、島の人のありのままの生活を垣間見ることができました。そこに人工物と自然との不思議な境界を感じました。

ブライアン・ヤンさん
（アメリカ、カリフォルニア出身）

大三島の位置、島と島のつながり、13の集落のつながりなどに興味をもちました。とくに、大三島と対岸の島々が海面（水面）によってつながっていることに惹かれました。

エレナ・ハスブンさん
（アメリカ、カリフォルニア出身）

私も参道です。参道には人が住んでいない家屋があります。生命力が旺盛な植物が空き家を覆い尽くいる光景を見て、この島独特の自然と廃墟の共存を見ました。

メイリス・メイヤーさん
（フランス出身）

私は元学校が宿泊所になった「ふるさと憩の家」の空間です。とくに廊下を境に「日なた＝公」と「日陰＝私」という境界があり、廊下が中間的な役割を担っていると思います。

ファビオラ・グスマンさん
（中米、プエリトルコ出身）

私も参道です。人がいない道で赤ちゃんを抱いてあやしているお年寄りに会いました。そんな光景を見て、ここでいったい何が失われてしまったのか？と考えました。

ビン・チューさん
（中国出身）

私は「みんなの家」に、大三島のおもてなしの心を感じました。現在改装中ですが、空間は木製で静かで神聖な印象なのに、ひょっと誰かが現れるような不思議な感じです。

スコット・マーチ・スミスさん
（アメリカ、ワシントンDC出身）

生まれて初めて参拝し、大山祇神社の神聖な環境を堪能しました。しまなみ海道開通が島を変えたと聞きましたが、時間的、空間的な変遷を神社の入り口で体感しました。

ショーン・チアさん
（シンガポール出身）

私は参道で剣道の竹刀を持った人に出会って少しだけ交流できました。そこで、島民の人が、外国人が島に来ることに対してどう思っているのかを知りたくなりました。

発行：大三島を日本でいちばん住みたい島にするプロジェクト実行委員会　文責：関康子　写真撮影：高橋マナミ
〒794-1308 愛媛県今治市大三島町浦戸2418今治市伊東豊雄建築ミュージアム内
TEL 0897-74-7220　FAX 0897-74-7225　MAIL omishima@tima-imabari.jp　URL http://www.tima-imabari.jp
発行日：2015年11月1日

文化庁